

2022年11月30日

島根中央信用金庫 2022年度上半期の業績について

島根中央信用金庫(島根県出雲市今市町 理事長 福間均)の2022年4月～9月の業績は、売上高にあたる経常収益は前年同期比2.4%増の23億10百万円、純利益は17.2%減の4億82百万円でした。増収は2期ぶり、減益は4期ぶりでした。

貸出金利息の増加や有価証券利息配当金の増加、貸倒引当金の戻入等により経常収益が増加する一方、有価証券の売却益の減少や法人税等の増加などにより減益となりました。

投資信託の中途解約益を除く、最も基礎的な収益力を示すコア業務純益は31.4%増の5億71百万円で、8期連続増加し過去最高となりました。

自己資本比率は前年同期比0.2ポイント低下の9.03%、不良債権比率は0.97ポイント改善の5.31%でした。

単位:百万円、%

	2022年 9月末	2021年 9月末	増減額	増減率
預金残高	281,313	260,438	20,875	8.01
貸出金残高	150,805	144,042	6,762	4.69
経常収益	2,310	2,255	55	2.45
経常利益	653	616	36	5.97
当期純利益	482	582	△100	△17.24
コア業務純益	571	435	136	31.45
コア業務純益(投資信託解約損益を除く)	571	435	136	31.45
自己資本比率	9.03	9.23		△0.2

- 経常収益は、コロナ禍で苦しむ地元企業へ積極的な資金援助を行ったことなどによる貸出金利息の増加 18 百万円や、有価証券利息配当金の増加 1 億 45 百万円等により 55 百万円の増収となりました。
- コア業務純益は、多くのお客様に当金庫を利用して頂いたことで預金残高や貸出金残高が過去最高となったことや、第 6 次中期経営計画の取組みにより効率性が向上したことで 1 億 36 百万円増益の 5 億 71 百万円となりました。また、最も基礎的な収益力を示すコア業務(投資信託解約損益除く)は、8 期連続増加し過去最高でした。
- 経常利益は、店舗建替え等による減価償却費の増加 13 百万円や有価証券の売却益の減少 1 億 37 百万円等があった一方、貸出金利息の増加 18 百万円や有価証券利息配当金の増加 1 億 45 百万円等により、4 期連続増益の 6 億 53 百万円となりました。
- 当期純利益は、課税所得の増加に伴う法人税等の増加 1 億 32 百万円により 1 億円減益の 4 億 82 百万円となりました。
- 自己資本比率は、貸出金残高や有価証券残高が増加したことにより 0.20 ポイント低下の 9.03%となりました。なお、国内基準 4%を大きく上回る水準を維持しており、健全性に問題はありません。
- 金融再生法による開示債権は 81 億 22 百万円で、不良債権比率は 5.31%となりました。不良債権の 84%は担保や保証、貸倒引当金により高い保全率でカバーされ、残り 16%は自己資本で十分カバーしており健全性に問題はありません。

本件に関するお問い合わせ先

島根中央信用金庫 経営企画部 竹下

0853-20-1000